

平成 25 年度事業 報告

高齢者割引サービス

1 事業概要

(1) 目的

高齢者の路線バス運賃を低廉化することにより、路線バスを利用した外出支援と外出機会の増加を図る。

(2) 対象者

佐渡市内在住の 75 歳以上の方

(3) サービス内容

- ・路線バスを 1 乗車 200 円で利用可能、補助券枚数は 1 年間 48 枚

2 利用状況

(1) 利用者数、利用枚数

平成 25 年度の割引サービス登録者数は 4,703 人である。そのうち一度でも利用している方は 2,961 人となっている。利用枚数は 54,032 枚であり、年々総利用枚数は増加している。一人あたりの年間平均利用枚数は 18.2 枚と年々増加している。

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
登録者		3,388 人	3,954 人	4,447 人	4,703 人
利用者数	2,210 人	2,632 人	2,808 人	2,996 人	2,961 人
利用枚数	27,452 枚	44,503 枚	50,524 枚	53,237 枚	54,032 枚
利用率 ^(※1)	25.8%	35.2%	37.5%	37.0%	38.0%
平均利用枚数 ^(※2)	12.4 枚	16.9 枚	18.0 枚	17.8 枚	18.2 枚

※1 利用率 $\frac{\text{総利用枚数}}{\text{利用者数}} \times 48 \text{ 枚}$

※2 平均利用枚数 $\frac{\text{総利用枚数}}{\text{利用者数}}$

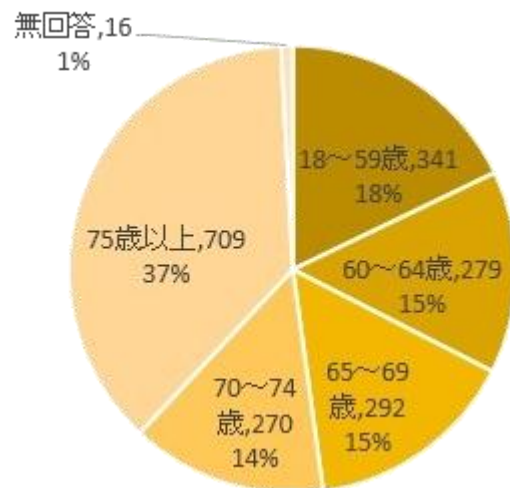
3 アンケートについて

高齢者運賃割引サービスの本格制度化に向けて、当サービスに対する意識や割引サービスに対する意向を把握するためにアンケート（19歳以上対象に3,700通を配布1,907通（51.5%）を回収）を行った。

調査目的を勘案して高齢者層のサンプル割合を多めに配布回収し、年齢拡大の検討対象となる可能性が高い60代以上の各年代の回収数が1,500枚を超えある程度の信頼性があると考ええる。

■アンケート回答者の年齢

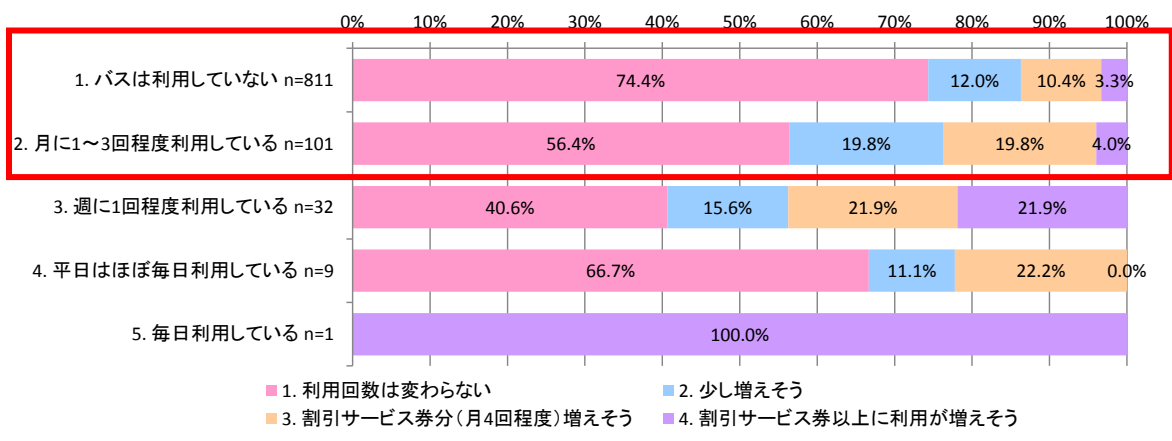
	配布割合
19～59歳	25%
60代	25%
70代	25%
80代以上	25%



アンケート結果

- 今後のサービスについては「継続すべき」との回答が年齢層を問わず多数を占め全体で93%の回答割合であった。同様に割引運賃の設定、利用回数の設定についても「運賃はそのままが良い（83%）」、「回数はそのままが良い（67%）」との回答が年齢層を問わず多数を占めた。
- 対象年齢については、「引き下げるべき」との回答割合が若年層になるにつれ要望が高くなる傾向が見られた。
- 年齢対象となった場合の動向についての設問では、バスを利用していない層のバス利用への転換割合は低くなっている。

問 14. あなたの年齢もサービス対象となった場合のバス利用の変化



直行便・乗換サービス

1 事業概要

(1) 目的

高齢者割引サービスを平成 21 年 7 月から実施してきたが、これにより、高齢者の多くが佐渡総合病院などへの通院目的でバスを利用していることが明らかとなった。一方で、路線の乗換えを要する場合が多く、接続のダイヤも不十分であることから、目的地まで直行で行けるよう利用者の利便を図る。

(2) 直通サービス

1) 対象者

利用制限なし

2) サービス内容

目的地需要が高い佐和田や佐渡総合病院まで延伸運行することにより、乗り換えをせずに目的地まで乗車することができる。

3) 対象路線

内海府線（監督署前～佐渡総合病院～佐和田 BS まで延伸）

海府線（佐和田 BS～佐渡総合病院まで延伸）

(3) 乗換えサービス

1) 対象者

路線割引サービス利用者（75 歳以上）が乗換え便に乗り換える際に利用可能

2) サービス内容

対象者が路線バスで乗り換えをして目的に向かう場合、乗換券を発行することで、片道バス補助券 1 枚と現金 200 円で乗車できる。

3) 対象路線

- ・東海岸線×内海府線
- ・前浜線×赤泊線
- ・度津線×小木線
- ・金田新田線×小木線

2 直行便サービスの利用実績

(1) 海府線（岩谷口～相川～佐和田 BS～佐渡総合病院）

- ・ 病院へ向かう佐渡総合病院行きは、総利用者数及び佐渡総合病院での降車が平成 24 年同時期と比較して増加傾向にあり、佐渡総合病院での降車は 17.6%と本サービスが有効活用されていることがうかがえる。
- ・ 病院から帰宅する岩谷口行きは、総利用者数は増加しているものの、佐渡総合病院からの乗車割合は 13.2%に減少している。

①佐渡総合病院行き

佐渡総合病院行き 岩谷口 6:40発					
		平成25年度 (H25.4.1～H26.3.31)	平成24年度 (H24.4.1～H25.3.31)	平成23年度 (H23.4.1～H24.3.31)	H24年度比
利用数	利用者数 1便あたりの利用者数	9,976人 40.7人(245便)	8,948人 36.5人(245便)	8,948人 36.4人(246便)	111.5%
鍛冶町～金井間	降車数	296人(3.0%)	303人(3.4%)	34人(0.4%)	97.7%
佐渡総合病院	降車数 1便あたりの降車数	1,752人(17.6%) 7.2人(245便)	1,283人(14.3%) 5.2人(245便)	1,471人(16.4%) 6.0人(246便)	136.6%

②佐渡総合病院戻り

岩谷口行き 佐渡総合病院 13:57発					
		平成25年度 (H25.4.1～H26.3.31)	平成24年度 (H24.4.1～H25.3.31)	平成23年度 (H23.4.1～H24.3.31)	H24年度比
利用数	利用者数 1便あたりの利用者数	4,528人 18.5人(245便)	4,364人 17.8人(245便)	4,114人 16.7人(246便)	103.8%
佐渡総合病院	乗車数 1便あたりの乗車数	596人(13.2%) 2.4人(245便)	668人(15.3%) 2.7人(245便)	660人(16.0%) 2.4人(246便)	89.2%
鍛冶町～金井間	乗車数	318人(7.0%)	247人(5.7%)	125人(3.0%)	128.7%

(2) 内海府線：病院乗入れサービス

1) 佐和田 ⇄ 真更川

- ・ 病院へ向かう佐和田行きは、総利用者数、両津病院および佐渡総合病院での降車数が平成24年同時期に比べ減少しているものの、佐渡総合病院での降車は32.2%と通院に対する需要が多い。

①佐和田行き

佐和田方面行き 真更川 5:58発(真更川～両津病院～佐渡総合病院～佐和田)						
		平成25年度 (H25.4.1～H26.3.31)	平成24年度 (H24.4.1～H25.3.31)	平成23年度 (H23.4.1～H24.3.31)	H24年度比	H23年度比
利用数	利用者数 1便あたりの利用者数	3,896人 15.9人(245便)	4,277人 17.5人(244便)	3,836人 15.6人(246便)	91.1%	101.6%
両津病院	降車数 1便あたりの降車数	247人(6.3%) 1.0人(245便)	283人(6.6%) 1.2人(244便)	274人(7.1%) 1.1人(246便)	87.3%	90.1%
監督署前	乗り越し人数 監督署からの乗車数	804人 444人	1,098人 384人	814人 429人	73.2% 115.6%	98.8% 103.5%
監督署前～ 佐渡総合病院	乗車数 降車数	487人(12.5%) 320人(8.2%)	574人(13.4%) 490人(11.5%)	484人(12.6%) 234人(6.1%)	65.3%	136.8%
佐渡総合病院	降車数 1便あたりの降車数	1,253人(32.2%) 5.1人(245便)	1,362人(31.8%) 5.6人(244便)	1,374人(35.8%) 5.6人(246便)	92.0%	91.2%
佐渡総合病院～ 佐和田	降車数(E) 1便あたりの降車数	300人(7.7%) 1.2人(245便)	260人(6.1%) 1.1人(244便)	190人(5.0%) 0.8人(246便)	115.4%	157.9%

②真更川行き

真更川方面行き 佐和田 14:22発(佐和田～佐渡総合病院～両津病院～真更川)						
		平成25年度 (H25.4.1～H26.3.31)	平成24年度 (H24.4.1～H25.3.31)	平成23年度 (H23.4.1～H24.3.31)	H24年度比	H23年度比
利用数	利用者数 1便あたりの利用者数	3,509人 14.3人(245便)	3,933人 16.1人(245便)	4,017人 16.3人(246便)	89.2%	87.4%
佐和田 ～佐渡総合病院	乗車数	179人(5.1%)	202人(5.1%)	246人(6.1%)	88.6%	72.8%
佐渡総合病院	乗車数 1便あたりの乗車数	440人(12.5%) 1.8人(245便)	600人(15.3%) 2.4人(245便)	570人(14.2%) 2.3人(246便)	73.3%	77.2%
佐渡総合病院 ～監督署前	乗車数 降車数	328人(9.3%) 278人(7.9%)	344人(8.7%) 284人(7.2%)	263人(6.5%) 408人(10.2%)	95.3% 97.9%	124.7% 68.1%
両津病院	乗車数 1便あたりの降車数	170人(4.8%) 0.7人(245便)	160人(4.1%) 0.7人(245便)	174人(4.3%) 0.7人(246便)	106.3%	97.7%

3. 乗り換え便サービス

- ・ 乗換えサービスは、407枚が利用されており、前浜線⇄赤泊線、東海岸線⇄内海府線については概ね横ばいの傾向である。度津線⇄小木線は平成24年度と同様に利用が少なく、金田新田線⇄小木線の利用は見られなかった。

	傾向	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	H24比	H23比
前浜線⇄赤泊線 前浜線 5.4人/便	→	290 (羽茂乗換1件含む)	311	293	185	93.2%	99.0%
東海岸線⇄内海府線 東海岸線 5.9人/便	→	113	136	162	136	83.1%	69.8%
度津線⇄小木線 度津線 1.5人/便	⇒	4	4	24	26	100.0%	16.7%
金田新田線⇄小木線 金田新田線 -人/便	⇩	0	1	9	1 (9.30まで外岬線⇄ 小木線:利用0件)	0.0%	0.0%
計		407	452	488	348	90.0%	83.4%

観光二次交通

1 事業概要

(1) 目的

既存路線バスを沿線観光地まで迂回・延伸させることにより、個人観光客の利便性向上と路線バス利用の促進を図る。

土曜日・日曜日を基本に既存路線バスの迂回・延伸させ、個人観光客にとって利用しやすいサービスとなるよう、平成21年7月から継続的に事業を展開してきたものである。平成25年度は3月30日にオープンしたトキふれあいプラザの集客力を路線バス利用促進に活かすため、両津港、小木港の両港からアクセス向上を図るため南線を迂回運行している。

(2) 内容

- 1) 期 間：平成25年4月1日～11月30日
- 2) 対 象 者：利用制限なし
- 3) 対象路線：本線、南線、七浦海岸線、小木線

参考：主要観光地入込客数（出典：佐渡市観光商工課）

観光地名	1月～12月の比較						
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	H25/H24	H25/H23
相川町中温泉	165,920	142,190	141,640	126,350	134,900	1.07	0.95
金井温泉	62,040	53,780	47,910	36,970	50,680	1.37	1.06
椎崎温泉	36,240	29,930	28,500	26,060	30,734	1.18	1.08
尖閣湾	143,190	119,430	112,990	108,270	112,160	1.04	0.99
大佐渡スカイライン	121,570	100,410	97,660	76,120	93,650	1.23	0.96
佐渡金山	234,550	195,440	177,490	160,950	179,790	1.12	1.01
根本寺	78,640	65,860	65,840	64,650	55,780	0.86	0.85
真野御陵	57,400	49,330	44,050	38,160	42,690	1.12	0.97
トキの森公園	196,040	164,930	143,790	154,940	202,110	1.30	1.41
佐渡歴史伝説館	118,680	97,450	76,810	63,990	73,200	1.14	0.95
西三川ゴールドパーク	101,490	86,140	94,810	90,500	93,320	1.03	0.98
天領の里(酒造見学)	6,000	6,190	4,760	4,660	5,700	1.22	1.20
かもこ観光センター	82,080	76,830	59,160	50,770	83,090	1.64	1.40
計	1,403,840	1,187,910	1,095,410	1,002,390	1,157,804	1.16	1.06

2 利用実績

- ・ 本線は平成24年度と比較してほぼ横ばいである。「佐渡金山」の乗降者数が前年度比で微減となる一方で、「佐渡版画村」、「相川博物館」の乗降者数は増加している。
- ・ 南線では、本年度運行を開始した南線のトキの森公園迂回については、休日のみの運行（8月は毎日）であったトキの森シャトルと比較して大幅に利用者数が増加している。また、土休日のみ迂回する他の主要バス停留所でも、妙宣寺以外のすべての施設で乗降者数が増加している。
- ・ 七浦海岸線は平成24年度と比べて乗降者数がやや増加している。
- ・ 小木線では、ゴールドパークへの4月～8月の利用者が減少しており、特に8月の減少が大きい。

1) 観光二次交通利用実績

(上段：乗降者数 下段：前年同月比増減)

路線	停留所	区分	平成 25 年度								
			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	計
本線(自)	佐渡金山	延	161 -9	308 -58	115 -41	197 -106	1,218 -86	396 158	195 -8	118 -3	2,708 -153
	佐渡版画村	延	11 -1	27 3	23 8	22 8	97 15	39 20	19 1	21 14	259 68
	相川博物館	延	5 -3	12 1	5 -2	21 20	86 35	26 22	7 3	7 4	169 80
トキの森シャトル(自)	両津港	観	-133	-299	-174	-272	-1,050	-260	-254	-67	-2,509
	椎崎温泉	観	-1	-10	-12	-24	-48	-9	-11	-6	-121
	能舞台前	観	-3	-2	-2	-15	-13	-2	-4	-1	-42
	湯上温泉	観	-22	-24	-23	-51	-112	-29	-28	-22	-311
	トキの森公園	観	-141	-309	-177	-312	-1,031	-289	-251	-74	-2,584
南線(廃)	トキの森公園(平日)	迂	213	368	234	289	1,057	314	179	91	2,745
	トキの森公園(休日)	迂	234	592	256	261	538	483	241	128	2,733
	歴史伝説館	迂	113 22	146 -7	92 4	94 -17	200 22	170 72	79 -37	95 41	989 100
	尾畑酒造前	迂	28 3	55 12	50 17	30 -5	52 -16	51 6	45 7	32 13	343 37
	吉岡臨時	迂	9 6	28 11	12 -4	16 -2	17 0	20 -9	29 17	40 7	171 26
	国分寺	迂	17 7	21 -1	23 15	21 -4	25 6	40 20	30 16	21 17	198 76
	妙宣寺	迂	9 -6	41 -5	32 11	41 12	13 -21	30 -4	26 -20	12 -3	204 -36
	大膳神社	迂	1 0	5 0	10 0	4 2	5 -10	16 12	2 -3	3 0	46 1
(廃) 七浦海岸線	尖閣湾達者	延	3 -14	30 -13	5 -9	33 9	57 10	23 10	8 5	5 4	164 2
	尖閣湾揚島	延	10 -14	31 1	13 -12	53 27	65 14	45 0	14 -8	23 16	254 24
(廃) 小木線	歴史伝説館	迂	75 19	122 1	45 -7	90 -26	168 -17	114 35	59 -32	62 20	735 -7
	ゴールドパーク	迂	25 -7	107 -45	14 -14	77 -53	247 -151	225 110	88 42	28 13	811 -105
合計			914	1,893	929	1,249	3,845	1,992	1,021	686	12,529

※今年度延長・迂回運行を行っている施設についてのみ集計

※フリー乗車券の使用可能 ※路線バス時刻表へ掲載

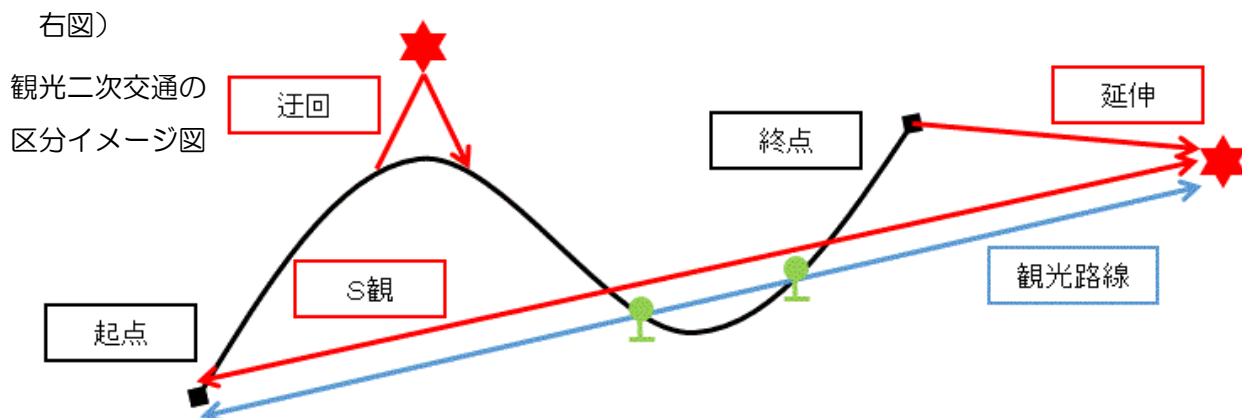
2) 観光旅客輸送

佐渡市の貸与するマイクロバスでの観光地直行型のライナー運行実績については以下のとおり

	区分	運行期間	料金	運行回数	利用人数
天然杉ライナー(貸)	S 観	6/8~7/15	大人 1,200 円 小人 600 円	52 回	176 人
天然杉ハイキングツアー(貸)	S 観	7/20~ 10/27	大人 9,980 円 小人 7,480 円	22 回	380 人

※フリー乗車券の使用不可 ※路線バス時刻表へ掲載はなく定期観光バスパンフレット等で告知

※ハイキングツアー料金は船代込み、船無しの場合は大人 5,000 円、小人 4,000 円



※参考 市貸与マイクロバスについて

貸与内容：平成3年式29人乗り、平成5年式29人乗り、平成9年式26人乗りの3台を平成22年9月より無償貸与、以降1年毎無償貸与契約を更新し、平成26年9月30日まで

用途指定：①佐渡市地域公共交通活性化協議会が実施する運行の用途

②道路運送法第17条(天災等により道路を通行することが出来ない場合の迂回等)

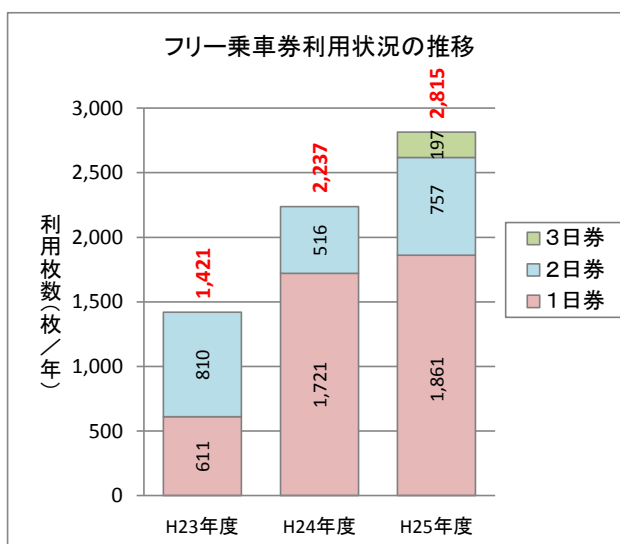
③大災害時等におけるバス輸送

運行計画

当初運行計画	協議会で実施した社会実験運行 南部地区デマンド運行路線（外岬線、度津線、赤泊山手線）
変更運行計画（現行）	天然杉ライナー等の観光客輸送

3) フリー乗車券の利用実績

- ・ フリーパスの販売枚数は増えている。
- ・ 平成25年度に販売を開始した3日フリー券についても一定の利用者があった。



主要施設における調査・検証事業

1 事業概要

(1) 目的

市内各地からの利用が見られる、佐渡総合病院及びセントラルタウンにおいて、調査員を配置し、直接聞き取りによるヒアリング調査を実施した。

佐渡総合病院では来院実態（手段・頻度など）や公共交通利用実態、要望等を聞き取り、セントラルタウンでは利用者のバス利用状況や認知度等の聞き取りを行った。

(2) 内容

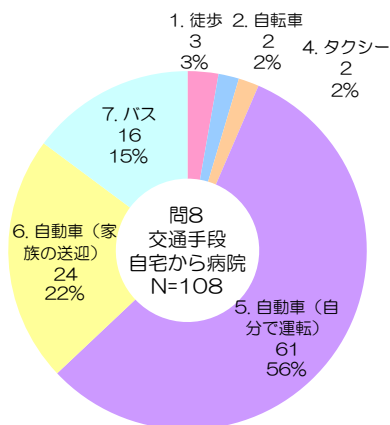
1) 期 間：平成 25 年 9 月 10 日

2) 調 査 数：佐渡総合病院..... 108 人
 セントラルタウン利用者..... 89 人
 セントラルタウンバス停利用者..... 8 人
 佐和田商工会館前バス停利用者..... 1 人

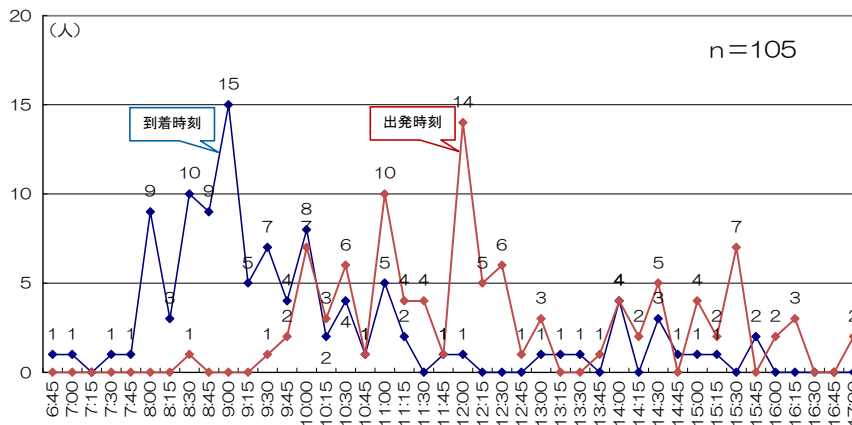
2 調査結果の概要 検証

(1) 佐渡総合病院

問 8. 交通手段(自宅から病院)



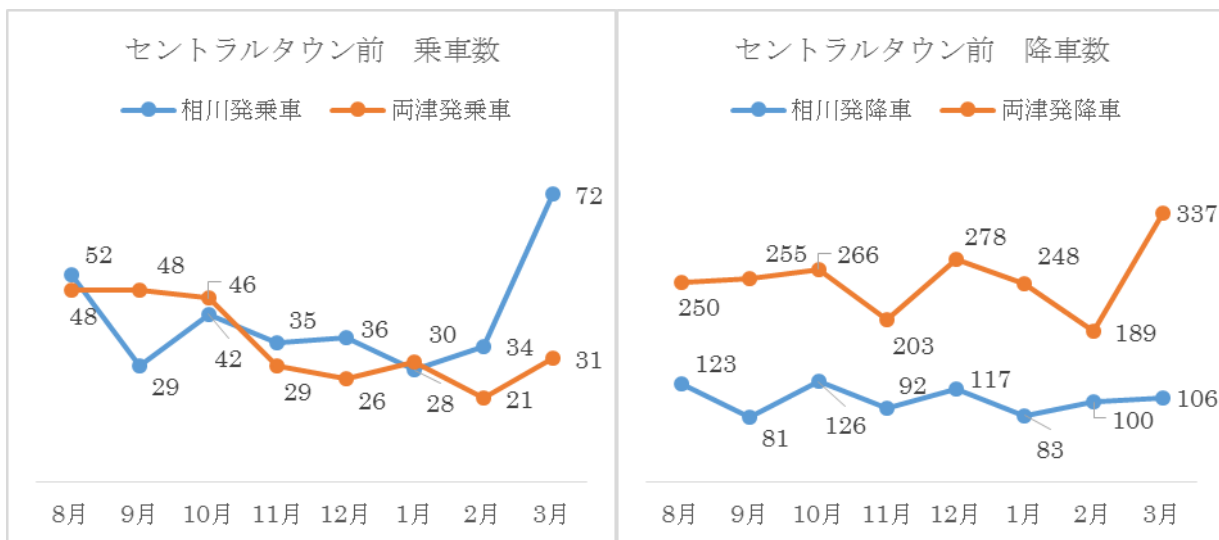
問 10. 病院到着時刻×問 12. 病院出発時刻



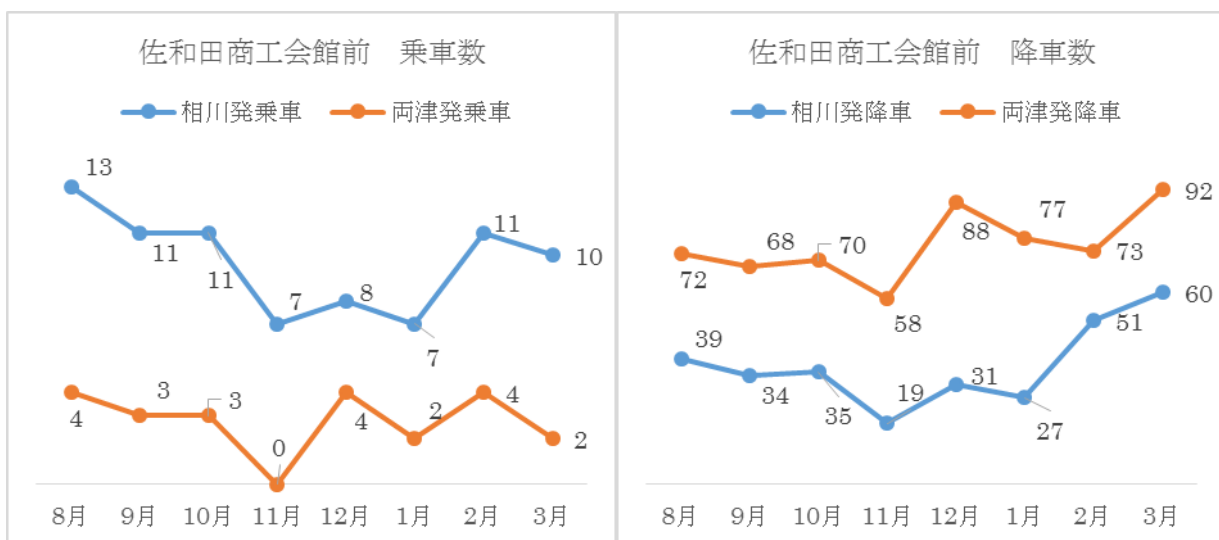
- 22%の方が家族送迎により通院しており、この層の路線バス利用へ取り込むための施策が必要である。
- 通院には本線利用者が多く、病院前ロータリーへの本線乗入れは利用拡大の契機となる。
- 通院時刻は9時頃、出発は11～12時ごろが多い。利用時間・滞在時間を踏まえた効率的・効果的な運行施策の検討が必要である。
- 診療後、帰宅までに立ち寄り施設のある方が42%と多く、乗換えの充実による利便性充実が必要である。

(2) セントラルタウン及び新設バス停

<セントラルタウン前乗降者数>



<佐和田商工会館前乗降者数>



- アンケート結果から、当社会実験に対する認知度がまだ低く、周知が必要である。
- セントラルタウンバス停利用者は、佐和田 BS 利用者からの転移が多いと推察される。
- 現在は、セントラルタウンへの買物利用に比べて、地元の方のお出かけ利用の方が多い。
- 20%の方が家族送迎で来店しており、午前中は 11 時台、夕方は 16 時半～17 時頃の利用が多い。これらを踏まえ来店者を路線バス利用へ取り込むための施策が必要である。
- 一方で 25%の方が今後は利用してみたいという意向がある。
- セントラルタウン前の利用者数については乗車数が降車に比べて少ないことから、乗車時は佐和田 BS を利用している可能性がある。今後、セントラルタウン内での待合環境整備が図られることで買物利用者の足としてのさらなる利便性向上が期待されることから、継続して利用状況・利用者特性の把握を行うとともに他路線の乗入等についても検討が必要である。

高齢者割引サービスについて

- ※2 ページのアンケート結果を参照
- 平成 26 年度から市の補助事業とし本格運用

直行便・乗換サービスについて

- 病院直行便に関しては、佐渡総合病院での降車は海府線で 17.6%、内海府線で 32.2%と利用割合が高く延伸効果が高いことに比べ、昼の帰り直行便の利用割合が少ない。
- 利用状況やヒアリング調査の結果から診療終了時間のばらつきや買い物等の別用事から乗換え利用での帰宅が推察される。
- 金田新田線及び度津線から小木線への乗換え便については利用者数が少ない、それぞれの路線自体の利用者数が非常に少ないことが原因であり金田新田線及び度津線の見直しが必要である。
- 昼の直行便について廃止の方向で検討する。
- 乗換便の金田新田線⇄小木線については、金田新田線の利用自体が曜日運行のため利用者数が少なく、宿根本線の路線見直しと合わせて小木半島の交通網をどうするか生活交通だけでなく観光客の移手段としての視点も加えて見直しを行う。
- 乗換便の度津線⇄小木線については、度津線と運行時間帯、運行エリアが重複するスクールバスを活用した生活交通の確保維持について検討を行う。

観光二次交通サービスについて

- 金山での乗降数が前年比で微減となったものの佐渡版画村、相川博物館での利用は増えている。金山発の便で佐渡版画村、相川博物館で降車があることから金山だけでなく相川地区を複合的に周遊する利用形態があり、平成 26 年度に新築される相川支所のターミナル機能を活用した相川周遊バス等について検討の必要がある。
 - 宿根木線については現在の利用状況から特定の日、期間に二次交通の需要が高まる傾向があるが、北陸新幹線開業・カタマラン就航により観光客の増加や個人・団体観光客の割合に変化が現れることで、求められる二次交通にも変化があることを想定した検討が必要である。
- トキの森公園のみ平日も観光二次交通を運行しているが、他の路線についてもゴールデンウィーク期間中の平日や 8 月の平日運行について検討する。
 - フリー乗車券の販売促進のため、取り扱い窓口の拡大や情報発信の強化を図る。
 - 北陸新幹線開業・カタマラン就航を見据えて小木半島の観光客の移動手段「宿根木線・金田新田線」の見直しを行うのと併せて小木港から国仲・相川・両津へスムーズにアクセスできるよう小木線の見直しを行う。